

令和5年度学校評価報告書

令和6年3月11日

北海道教育委員会教育長 様

北海道旭川北高等学校長 木 幡 かおる 印

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

次代を担うにふさわしい

- 1 何事にも真剣に努力する人間
- 2 決まりを守り、人に迷惑をかけない人間
- 3 豊かな心と、たくましい体を持つ人間
- 4 働くことを通して責任感あふれる人間(定時制) になることを目指そう

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	コロナ禍で得られた知見を踏まえ、行事や学校運営に生かし、新たな教育活動を展開してきた。間口減に伴う教職員数減少と並行し、新たな学校経営を進めている。ICTを活用した情報提供は開かれた学校として評価を高めた。新たな学校体制づくりを進め、持続可能な学校づくりを推進する機会とした。全日制、定時制ともに行事を工夫し生徒に達成感や充実感を得させることができた。今後は間口減による組織改編を進め、業務分担を明確化し、業務の平準化を進める。	評価 : A ----- コロナ制限解除以降、適切な学校運営に取り組んでいる。引き続き、教育者として、高い倫理観を持って教育活動に邁進してもらいたい。今後は組織再編に伴う業務改善をさらに進め、時間外勤務の縮減と平準化をつなげていくことを期待している。
改善方策	(全日制) 職員間の連携を密にし、協働体制による業務の効率化を図る。不適切な指導に係る校内研修を実施し、職員の意識を高める。 (定時制) 行事のねらいを明確にし、生徒が主体的に取り組む体制を構築する。	
進路指導	講演会や出張講義等の活用、ICTを活用した進路情報活用など、生徒一人ひとりの進路活動の充実を図っている。 全日制では、系統立てた探究活動を通じて主体的に学ぶ姿勢を育成している。加えて、新たに大学と連携し、「みらいの教員育成プログラム」に取り組んでいる。定時制では、外部関係機関と連携し、系統的な進路指導の充実を図る。	評価 : A ----- アンケートにおいて高く評価されていることは素晴らしい。北教大との連携事業など、新たな事業に取り組んでいることも高く評価できる。定時制には、若者サポートステーションなどと連携を深め、社会に通用する多面性のある進路指導を期待したい。
改善方策	(全日制) 外部団体と連携した探究的学習を通じて、新時代に必要な資質能力を養成する。ICTを活用した情報発信を進め、地域から信頼される学校づくりを推進する。 (定時制) 外部関係機関と連携し、自己の適性と社会で求められる能力を理解させる。	
学習指導	ICT教育環境を整備し、その活用を授業をはじめ、様々な教育活動において大きく進めることができた。今後は、ICTを活用した教育活動の深化を目指して様々な取組が必要となる。定時制では、授業マナーを徹底し、主体的で対話的な深い学びにつなげるコミュニケーション能力が必要である。	評価 : A ----- 進学実績が向上傾向にあり、地域から期待される進学重視型単位制高校として確立されてきている。今後は、ICTの活用推進による、更なる学力向上を期待している。
改善方策	(全日制) 土曜講習等を戦略的に実施し、学習意欲を引き出す指導を行う。 (定時制) 教科横断型の学びを通してコミュニケーション能力を育成する。	
生徒指導	いじめ防止基本方針の見直しを進め、積極的認知と組織的な対応に係る研修を行うことで適切ないじめ対応をすることができた。生徒支援の系統化を推進した。	評価 : A ----- 生徒サポート機能の充実は、今後の更なる充実を期待している。
改善方策	いじめの未然防止対策と「命を守る」教育を充実させていく。	
公表方法	学校ホームページに掲載	

3 添付資料

- (1) 学校関係者評価書
- (2) 自己評価アンケート
- (3) 保護者アンケート